

(仮称) 南三陸町子ども・子育て支援事業計画(素案)に対する意見

No.	計画の関係箇所	ページ	意見の内容	町の考え方
1	第6章 子育て支援施策の展開	51 57	「放課後子ども教室」は検討となっているが、早期に実施してほしい。放課後児童クラブについては、現在の放課後児童クラブは町内に2箇所だが、伊里前に関しては利用人数に対して部屋の広さが十分でないという声があったので、早急に対応してほしい。また入谷地区・名足地区でも学童保育を行ってほしいという声も多い。平成28年度から3か所に拡充となっているが、さらに拡充することを検討してほしい。小学校区域ごとに1つずつ児童館のような子育て支援の拠点となる施設があることが理想だが、新設が困難であるなら校舎の空き教室や地域の集会所や既存の施設を利用して学童保育を実施するなど柔軟で早急な対応を望みます。	共働き家庭等の児童を対象とする放課後児童クラブは、現在仮設建物により町内2箇所で開催しており御指摘のとおり十分な体制ではないと認識しております。町では平成28年度供用開始予定で整備を進める戸倉地区放課後児童クラブをはじめとして全小学校区単位での事業実施を目指しているところです。すべての子どもたちの居場所づくりのため新たな施設整備のほか、対象を共働き家庭等の児童に限定しない放課後子供教室事業との一体型整備推進についても関係部局と検討を進めます。
2		51 73 74 80	学校スポーツ施設等の開放の推進については、地域住民の交流が目的の団体(ママサークルなど)でも解放してくれるなど、利用できる団体の間口を広くしてほしい。休日なども施設を使えるのは子どもたちの居場所になるのでとても助かる。使えることを知らない住民も多いように感じるので、特に子育て家庭への周知は拡充してほしい。また、事故や犯罪の防止のためにも子どもたちが安全に使えるルール作りや見守り体制は重要だと思うので、地域住民からボランティアを募るなどしっかり行ってほしい。	御存知のとおり宮城県では、「子育てにやさしい宮城県」を目指す県民運動を実施しています。本町でも地域みんなで子育てを支える仕組みづくりを進めており、地域の子育て支援者を増やし育み、地域主体の子育て支援を展開できるように取り組んで参ります。
3			遊具の安全管理について、1年に1度の点検だけでなく、「安全で使いやすい状態の遊具」の維持をお願いしたい。(例えば錆びついてしまう前に定期的にペンキを塗りなおすなど)管理するのが町以外の場合は、管理者等に整備用の助成を出したり、整備のボランティア活動の要請をするなど、子どもたちが安全に遊べるよう今まで以上に取り組んでほしい。事故が起きてからでは遅いですし、きれいな公園なら人も集い大事に使ってくれればいいと思います。	安全確保を最優先に、利用者の視点に立った整備を心がけております。
4			新しい遊び場の提案です。乳幼児から小学校低学年くらいまでが対象の思いっきり遊べる屋内施設ができると嬉しいです。天候を問わず、赤ちゃんも安全に使える遊び場があれば梅雨時も冬場も思いっきり動けます。子育て世代のリフレッシュにもなり、地域交流も盛んになるのではないかと思います。新設される子育て支援センターの機能に期待します。また、学校施設の開放事業を利用して、乳幼児親子に保育所を開放する機会を作ってほしい。実現すれば、施設を新設しなくても、すぐにニーズに対応できるのではないかと。	平成27年12月供用開始予定の地域子育て支援センターが利用しやすい施設となるよう運用して参ります。また、平成28年度には戸倉地区・歌津地区に子育て支援センターが整備され、より身近な遊び場として活用が可能となります。子育てを通して皆さまが地域交流の場としても活用しやすいよう運営して参ります。
5			住む地域によって格差のない、質の高い幼児教育を望みます。(町外との差を感じる保護者も少なくないようです。)例えばALTによる英会話教育など。新制度によって公立保育所は認定こども園への移行を検討していますが、子どもたちが充実した時間を過ごせて、適切な教育を受けられるよう保育士の研修、人材確保、人材育成に今後力を入れて行ってほしい。また、地域の人材を活用した幼児教育の継続・拡充も提案します。(例:歌津地区での体操教室)町の人によって、子どもたちの可能性が広がり、地域交流・世代交流が盛んになっていって素晴らしい。地域の特色を生かした幼児教育は魅力になると思う。	本町では世代間交流事業や教育委員会と連携した幼児体操教室を実施するなどそれぞれの保育所が特色ある保育に努めています。今後さらに教育委員会と連携してALT活用の英会話教育実施の可能性についても検討を進めるとともに、保育士のキャリアアップのための研修機会を確保する等保育の質の向上にも積極的に取り組みます。

6		<p>提案です。震災前に「地域の方から学ぶママの勉強会」があったそうですが、再開を強く望んでいます。育児の知識・技術の習得は、子育てママにとって育児の自信になるし、何より家の外に出ることが育児疲れのリフレッシュになるはず。新米ママにとっても町外から嫁いできた女性にとっても知り合いを増やす大事な機会です。子育て世代の孤立を防ぐためにも復活してほしい事業です。</p> <p>育児セミナーや講演会内容・講師について住民からのリクエストを受け付ける窓口や機会を設けてほしい。さらに反響の良かったものは子どもの健診の際に合わせて受講できるなどすべての子育て世帯が楽しく充実した育児を行える仕組み作り、体制づくりをがんばってほしい。</p> <p>現在ママかふえや離乳食教室も充実してきているが、さらに増やしてほしい。同年代の子どもを持つ親同士が出会い、語れる場が増えると嬉しい。</p>	<p>リフレッシュ講座や育児の勉強会は、子育て支援センターを中心に取り組みます。子育て支援センターでは既存事業の一層の充実を図りながら一時預かり事業などこれまで実施のない事業についても実施に向け準備を進めて参ります。育児セミナーなどの御意見もお寄せいただき、ニーズを反映させた内容の事業実施に取り組みます。</p>
7		<p>ファミリー・サポート・センターは、サービスの名前・内容を知らない人が多いと思う。普及・啓発には、わかりやすさとスピード感をプラスして、たくさんの人に早く知ってもらいたい事業です。同時に、適切な人材確保と育成（研修等の充実）にも力を注ぎ、地域に根付いていくような事業にしてほしい。また、事業のための施設を作る場合は、窓口の設置場所、利便性、防災の面で安全性の高い場所であるほど利用する人が多いと思う。</p>	<p>ファミリー・サポート・センター事業はこれまで実施へ向け検討準備を進めて参りましたが、本事業の『相互援助活動』としての周知は十分ではなかったと認識しております。事業の普及・啓発により一層努めるとともに、特に援助を行う側・支援する側の方の登録が増加するよう取り組んで参ります。</p>
8	第6章 子育て支援施設の展開	<p>経済的負担の軽減について、各種手当等の支給がさらに拡充されることを望む子育て世帯が多いです。登米市の「子育て用品支給事業」や北海道福島町の「出産祝い金」のような地域全体で子育てを応援するような事業は検討できないでしょうか。子育て世代にとって、子供を産み育てていくような町の魅力につながっていくと思います。</p>	<p>町では、子育て世帯の負担軽減策として保育料の減額や18歳までの医療費無料化、乳幼児の任意予防接種全額補助などを進める方針です。経済的負担軽減の方法は自治体により様々ありますが、費用負担を心配する必要がない仕組みで住みよいまちづくりを目指します。</p>
9		<p>小児医療体制の充実・小児科医の確保は拡充の検討をお願いします。小児科は現在の週3日から診療日を増やしてほしい。難しいなら診療時間を延ばすなどとにかく今よりも増やしてほしい。（午後の受付を夕方まで拡大するだけでも助かる。）少子化のため利用は少ないかも知れないが、地域の診療所にいつでも小児科医がいるということ、夜間に対応してくれる診療所があることは、子育て世帯にとって、とても安心できる環境だと言えます。</p> <p>医療費の助成や予防接種の助成については、新聞記事が掲載されていたが、ありがたく、町の魅力になっていくはず。ぜひ事業の実現と長期継続をお願いします。</p>	<p>小児科医師の確保については、非常勤医師派遣による診療体制の維持・確保を図りながら引続き常勤医師体制を目指し取組んで参ります。また医療環境を考慮し、平成27年度から医療費助成18歳までの対象拡大とともに任意予防接種に対する全額助成を継続して実施する予定です。安心して子育てできる環境の安定的な整備に努めて参りますので御理解をお願いいたします。</p>
10		<p>障害児の受入れと同時に一時預かりの事業は検討できないか。また町内既存の受入れ可能な事業所内託児所との連携で今よりも障害児やその家族にやさしいまちづくり、町としての体制づくりはできないでしょうか。</p>	<p>障害児保育は支援内容や障害の程度に応じ、その子にとっての適切な環境が大切であると考えます。個々の発達が進められるよう専門機関と連携し保育内容の充実を図ります。また一時預かり事業については、地域子ども・子育て支援事業のひとつとして実施の準備を進めています。障害の有無に関わらずすべての子育て家庭を支援する事業を充実を図ります。</p>
11		<p>サークル活動などの推進について、今よりも協力を増やしてほしい。ママサークルなどと行政の連携でママも子どももイキイキ活発に活動できる町になってほしい。（例：サークル主催のイベントの告知、子育て世帯向けの情報誌配付など）</p>	<p>団体相互の理解・協力を支援することを通して地域全体に助け合いの意識を醸成する取り組みを進めながら、SNS等活用の検討を含めすべての子育て家庭が子育て関連情報を受け取れる仕組みづくりを進めます。</p>
12		<p>子どもや子育てにやさしいまちづくりについて、子供連れでも安心して外出できる環境は、町に住む人も観光で来る人も両方にとってとても重要なことです。ぜひ力を注いで継続してほしい。また行政以外が主催のイベントでも託児コーナーが設置できるような仕組み、サービス作りを検討してほしい。（例：退職者・研修中の学生・現役ママ・子育て経験者などの登録制託児ボランティア派遣サービスなど）</p>	<p>地域で安心して子どもを育てていくため誰もが暮らしやすいまちづくりを推進します。子育てボランティアの育成・登録を進め、人材確保と幅広い人材の活用を図るとともに、地域で子育てを支える意識の醸成に努めます。</p>